

電気通信大学 平成19年度シラバス

授業科目名	有機合成化学		
英文授業科目名	Synthetic Organic Chemistry		
開講年度	2007年度	開講年次	
開講学期	前学期	開講コース・課程	博士前期課程
授業の方法		単位数	2
科目区分	電気通信学研究科-量子・物質工学専攻-基礎科目		
開講学科・専攻	量子・物質工学専攻		
担当教官名	丹羽 治樹		
居室	東6-836		

公開E-Mail	授業関連Webページ
丹羽	

<p>【主題および達成目標】</p> <p>21世紀には機能性有機化合物がますます重要となる。それは炭素原子が無限で多彩な化合物形成能をもつからである。有機化合物には限りがないのである。さて必要な機能を引き出すには適切に分子設計された有機化合物がなくてはならない。しかし分子設計してもそれが手元になれば物性が測定できない。必要なものは自分で作る他にない。そこで必要になるのが、欲しい有機化合物を自ら合成する能力である。本講義では合成法の基礎を学ぶ。</p> <p>とくに有機化合物の合成法を考案する際に大切となる合成経路の考案法を学びます。</p> <p>どんな物でも構造式さえ書ければ合成できる時代です。</p> <p>ただし効率よくそれを行うには一定の合理的な考え方（合成経路の組み立て方）が必要です。</p> <p>どんな物でも構造式さえあれば地力で合成経路を考案できる実力を身につけよう。</p>

<p>【前もって履修しておくべき科目】</p> <p>学部の有機化学、有機物質工学第一、第二が基礎になります。</p>
--

<p>【前もって履修しておくことが望ましい科目】</p>

<p>【教科書等】</p> <p>参考書：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院講義有機化学II（有機合成化学、生物有機化学）、野依良治ほか編（東京化学同人） ・Carey, F. A.; Sundberg, R. J. Advanced Organic Chemistry, Part B: Reactions and Synthesis (4th ed); Kluwer Academic/Plenum Publishers: New York, U. S. A., 2001.

【授業内容とその進め方】

有機化合物の構築に必要な重要な方法論や逆合成の考え方を豊富な具体的な事例に基づき学んでいきます。

- ・レトロン、シントンの概念と逆合成
- ・炭素骨格の構築法
- ・炭素-炭素結合の形成
- ・官能基変換法
- ・保護基の概念
- ・「合成等価体」
- ・反応の官能基選択性
- ・立体化学の制御

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

標的化合物を合成する経路を考える課題に対してレポートを提出してもらいます。その内容により評価します。

課題には決った正解と言うものではなく、どのように合理的に考えるか、その道筋が大事です。

【オフィスアワー：授業相談】

特に定めはありません。時間の許す限り対応しますが、不在の時も有りますので相談等に来る場合は事前にメールで連絡して下さい。

【学生へのメッセージ】

学部で学んだ有機化学、有機物質工学Ⅰ,Ⅱが基礎になります。有機化学がものの合成にいかに関与しているか実感して下さい。

【その他】